

NISA、ジュニアNISA、企業型DC、iDeCoの投資優遇税制4制度で認知度の最も高いNISAの投信において人気があったグローバル株や日本株。

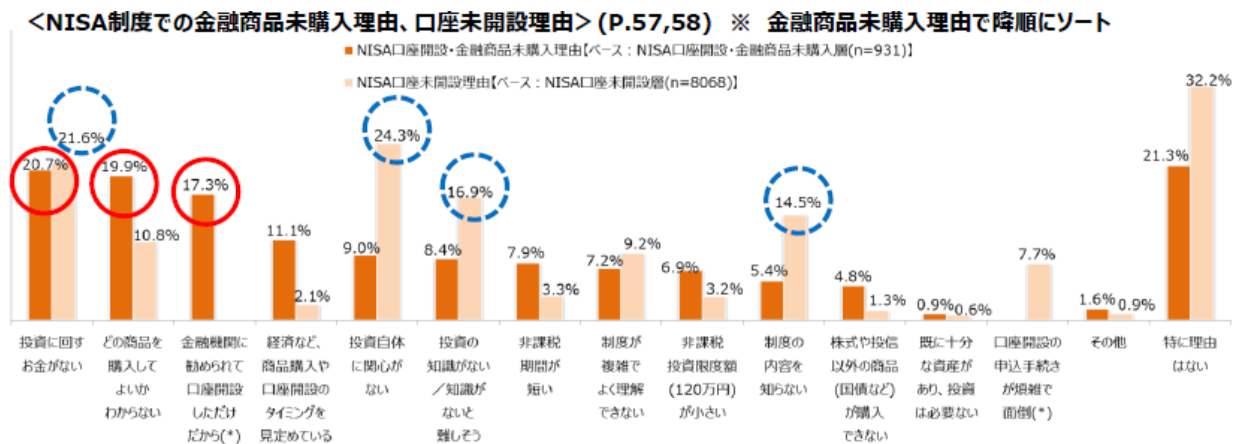
商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

投資優遇税制4制度で認知度の最も高いNISA口座を持ちながら、金融商品未購入の理由は「投資に回すお金がない」と「どの商品を購入してよいかわからない」…

2017年3月30日に投資信託協会が、NISA(少額投資非課税制度)とジュニアNISA、企業型確定拠出年金とiDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金の投資優遇税制4制度に関するアンケート調査報告書を公表した(URLは後述[参考ホームページ]①)。そこに「**NISAの認知が6割(59.9%)と最も高く、iDeCoの認知がもっとも低い3割強(32.6%)**」と出ていた(制度の内容まで踏み込むと、「NISAの認知は23.7%、iDeCoは8.8%」)。

また、「**NISA口座を持ちながら、まだ金融商品を購入した事がないと回答した人は26.3%と4人に1人**」いた。理由で多かったのが「**投資に回すお金がない(20.7%)**」と「**どの商品を購入してよいかわからない(19.9%)**」(下記グラフ参照)。後者の「どの商品を購入してよいかわからない」についてはジュニアNISAで23.1%と特に多かった。



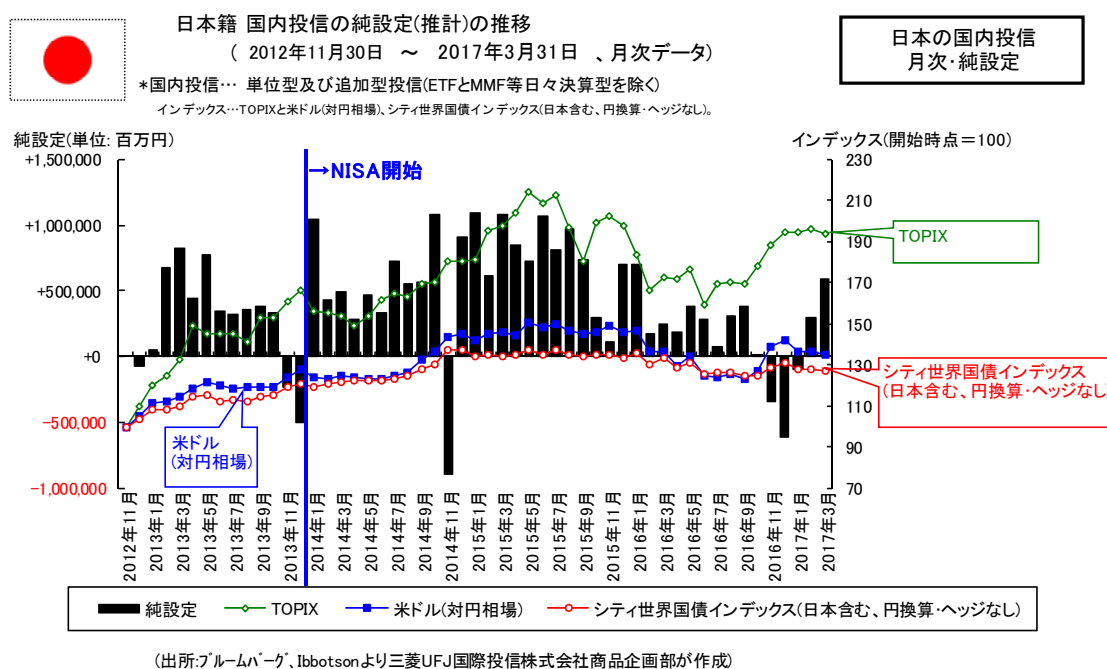
(出所：投資信託協会「2016年投資信託に関するアンケート調査(NISA、iDeCo等制度に関する調査)報告書」)

2017年2月28日に金融庁が、NISA口座開設数は1069万口座(2016年12月末速報値)と公表しており、日本証券業協会が公表するNISA口座稼働率/主要証券10社/2016年末時点の60.2%をかけると、**実際に投資が行われた口座は推計643万口座と、利用者は600万人を超える**(URLは後述[参考ホームページ]②)。主要証券10社における口座稼働率が約60.2%、つまり金融商品未購入の口座が39.8%である。一方、前述したアンケートは口座開設者の4人に1人(26.3%)が金融商品未購入であり、若干低めの結果となっている。

金融商品未購入の理由で多かった「投資に回すお金がない」については、どうにもならない部分が多いが、「どの商品を購入してよいかわからない」については、当局、メディア、そして、金融機関などからの情報提供が有益と思われる。その情報の中には、これまでどのような金融商品が購入されてきたかもあって然るべきと思われる。こうした情報において、NISAの主たる投資対象である投信はデータが充実しており、速報性もあり、特に参考になる(*主たる投資対象…NISAでの買付額において投信61.7%、上場株式35.8%、ETF1.7%、REIT0.9%～2016年9月末時点～URLは後述[参考ホームページ]③)。そこでNISAの最新2017年3月の投資動向を見る。

NISA の最新 2017 年 3 月の投資動向～既存投資家は 2 カ月連続の資金純流入～

NISA の投資家を、既存投資家と投資未経験者(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※1 参照)で代替する。まず **NISA の既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は 2017 年 3 月に+5906 億円と、前月から倍増、2 カ月連続の資金純流入**だった。



NISA の既存投資家はグローバル株やオーストラリア株を志向

2 カ月連続の純流入となった 3 月の純設定を投資対象(主要分類)別で見ると、**2017 年 3 月に最も純設定の大きかったのは、グローバル株、次いでアジア株(除く日本)、ハイイールド債、アセットアロケーション柔軟型**だった(次頁グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で 2016 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。アジア株、ハイイールド債、アセットアロケーション柔軟型は「その他」に含まれる)。

グローバル株の純設定は 3 月に+1823 億円と、NISA 開始以来の最大となった前月 2 月(+3521 億円)を下回るものの 4 カ月連続の純流入だった。前月 2 月は、グローバル株がほとんどで、新規設定された人工知能(AI)関連ファンドの純設定が+3500 億円近くとなった事がある。グローバル株や人工知能(AI)関連ファンド等への人気については、「看板公約だったイスラム圏からの入国禁止、医療保険制度改革法(オバマケア)の代替法案が頓挫するなどトランプ米大統領の政治リスクが市場に大きな影響を及ぼすなかでも、AIは中長期の成長テーマとして期待が高まっている。昨年まで人気だった海外の不動産投資信託(REIT)投信からは資金が流出しており、新たな海外資産としてAI投信が投資マネーの受け皿となっている面がある。」(2017 年 4 月 2 日付日経ヴェリタス～URL は後述[参考ホームページ]④)と報じられていた。グローバル株に次いで純設定の大きかったアジア株(除く日本)は 3 月に+1104 億円だったが、これは主にオーストラリア株である。

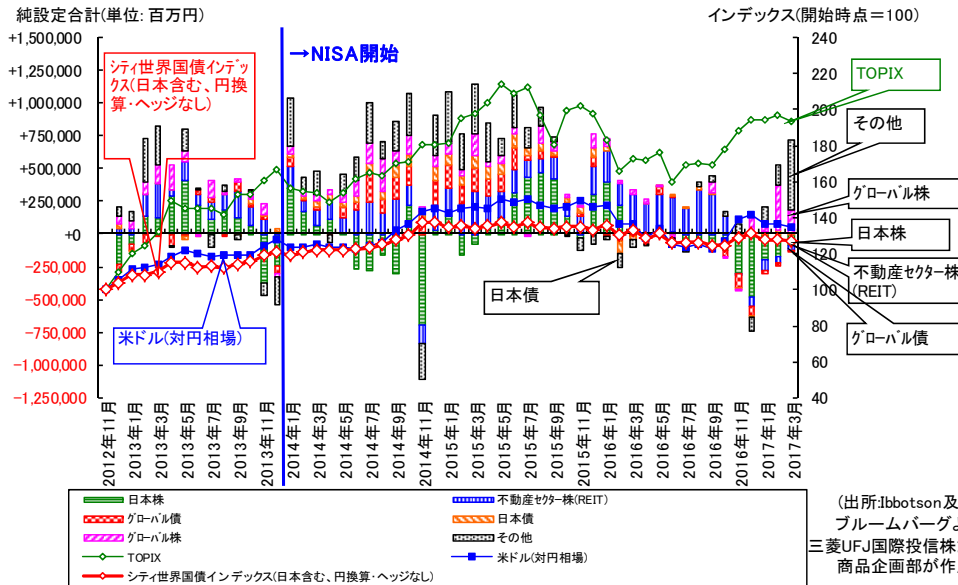
一方、日本株は引き続き純流出が最大であるが、-786 億円に鈍化した(←2 月-1683 億円←1 月-1895 億円←2016 年 12 月-4771 億円 *11 月 8 日の米大統領選挙後の株高をうけて利益確定の売りが膨らむ←11 月-2951 億円)。2016 年 11 月以降、純流出が続いていた不動産セクター株(REIT)も足元鈍化傾向だ(2017 年 3 月の純設定額は-381 億円←2 月-407 億円←1 月-807 億円←2016 年 12 月-686 億円←11 月-43 億円)。



日本籍 国内投信の主要分類別純設定(推計)の推移
(2012年11月30日 ~ 2017年3月31日、月次データ)

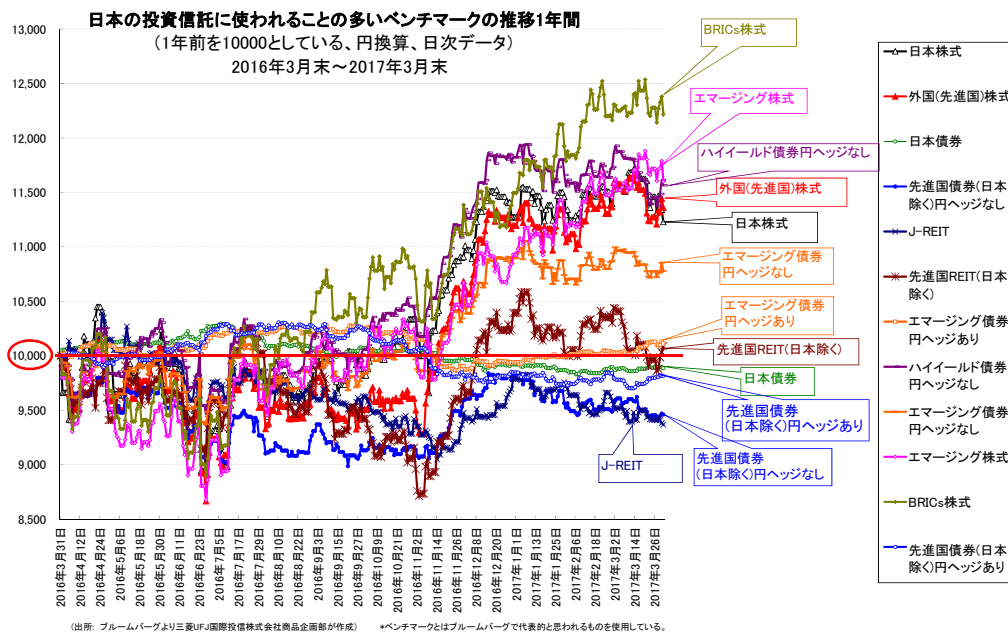
*国内投信… 単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)
インデックス… TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本国内投信
月次・純設定
主要分類別



(出所: Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

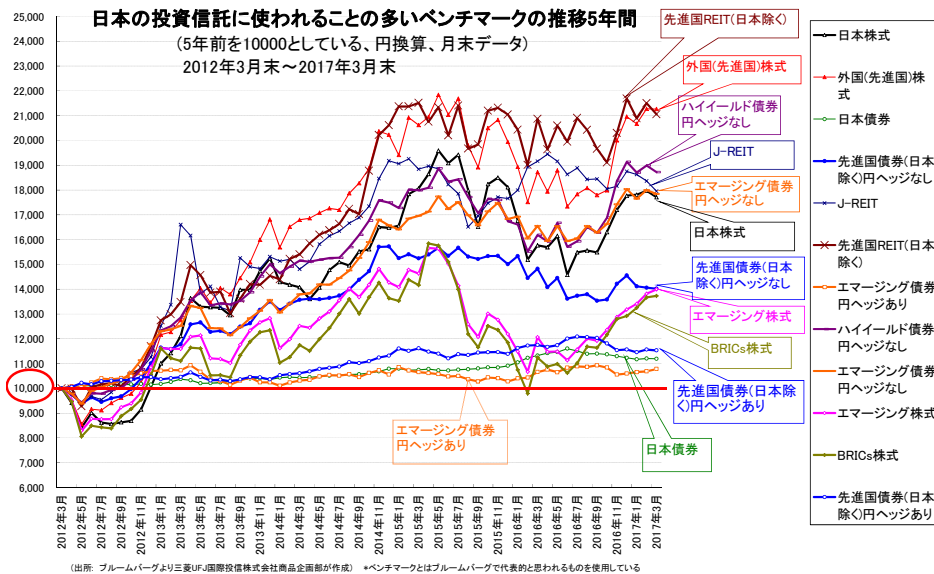
日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たところ、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs 株式、エマージング株式、ハイイールド債円ヘッジなし、先進国株式、日本株式、エマージング債、先進国 REIT となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。前述した様に2017年3月の投信全体でグローバル株、アジア株(除く日本)、ハイイールド債などは純設定が大きかったが、こうしたパフォーマンスの好調さによる所もあろう。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

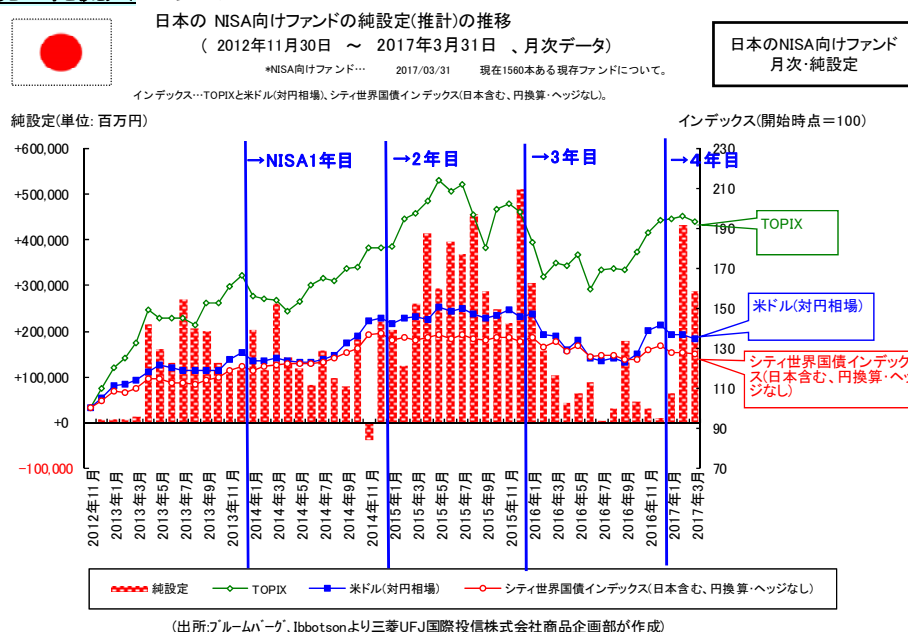
先進国 REIT は、3年で見れば、上記グラフのベンチマークで最も好く、5年では2番目に好かった。ただ、1年では8番目、直近3カ月や1カ月で見ると下から3番目だった。

日本株のパフォーマンスは、3年や5年で見れば、上記グラフのベンチマークで BRICs やエマージング株を上回るパフォーマンスだったが、足元1カ月・3カ月・1年では BRICs やエマージング株に劣後し、1カ月では好い順で7番目だった。下記のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、先進国 REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、J-REIT、エマージング債券円ヘッジなし、日本株式となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、5年や2016年9月末からの半年で見れば、下記グラフのベンチマークで最も好く、3年では3番目に好かった。こうしたパフォーマンスの好さがグローバル株への人気につながっている様に見える。



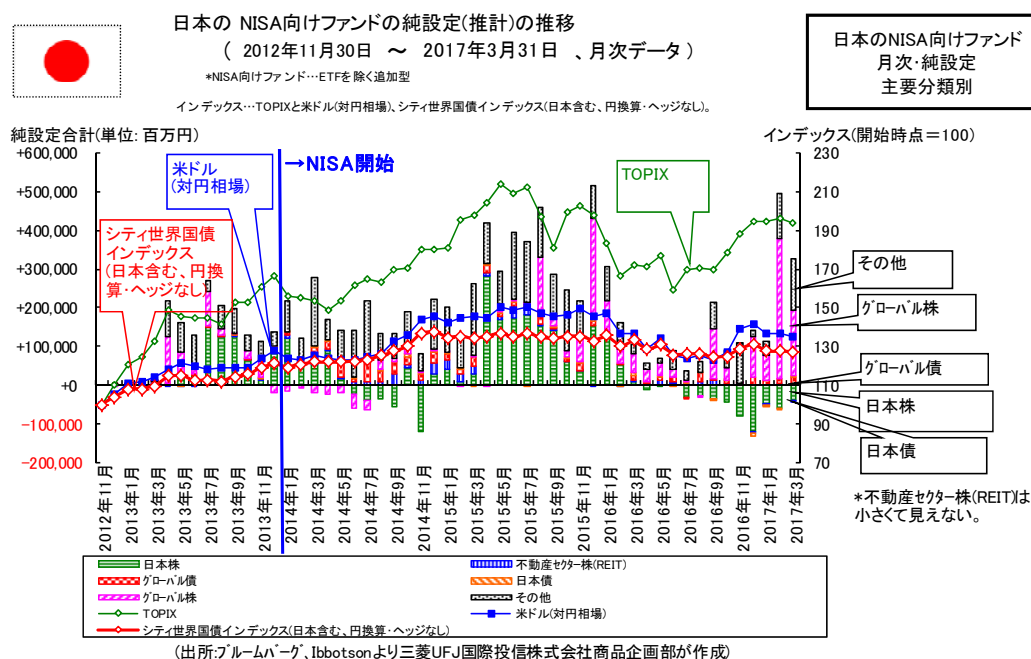
NISA の新規投資家はグローバル株・アロケーションファンドを志向

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。既存投資家の動向を示す投信全体では2カ月連続の純流入となったが、NISA 向けファンドの純設定は、最新2017年3月は+2858億円と2014年12月以降2年4カ月連続の純流入である。



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]⑤)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017年3月31日時点で1560本となった。

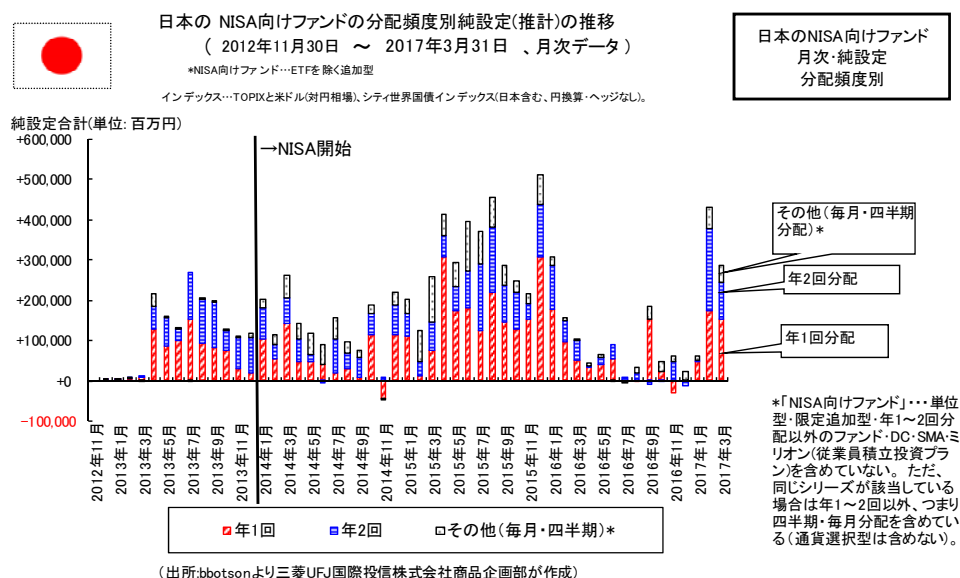
投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年3月の純設定1位はグローバル株(前月2月も1位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(同2位)、3位は米国大型ブレンド株(同3位)だった**(下記グラフ参照。アセットアロケーション、米国大型ブレンド株は「その他」に含まれる)。



2016年1年間の純設定額が+5027億円とNISA向けファンドでは最大だったグローバル株は、投信全体と同様3月も純設定額が最大で、2016年9月から7カ月連続の純流入である。2位のアセットアロケーション柔軟型だが、2015年・2016年の年間純設定額も2位だったが、2017年も純流入が継続している。「**米トランプ政権の政策や欧州各国の選挙など不透明要因が重なり、国際分散投資を改めて意識したい局面だ。**」(2017年3月2日付日本経済新聞電子版~URL は後述[参考ホームページ]⑤)や「**NISAの非課税枠は年120万円の上限があります。値上がりした資産を売ってもその分の枠は再利用できず、リバランスが難しい面があります。バランス型は運用会社が資産配分の調整をしてくれるため、個人は投信自体を売却する必要がなく、投資枠を温存したままリバランスができます。**」と言われている(2017年1月28日付日本経済新聞朝刊~URL は後述[参考ホームページ]⑥)。

一方、日本株は、2015年1年間の純設定額最大(+1.4兆円超)から、2016年は-1667億円と、年間純流出最大となり、2017年は3月にかけて9カ月連続の純流出となっている。

ここではNISA向けの対象を基本的に年1・2回分配ファンドとしているが、NISA向けファンドの純設定を分配頻度別にみると、年1回分配ファンドが最も志向されていることが分かる。「長期運用を見据えた年1回決算型の投信(上場投信など除く)の3月末時点の純資産残高は12兆1335億円と前年度末比1割増え、2005年度末を上回り、過去最高。少額投資非課税制度(NISA)や確定拠出年金などの普及が進み、貯蓄から資産形成への流れに弾みがついている。」(2017年4月4日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]⑧)と報じられていた通りである(*下記グラフの「その他」は年1・2回分配型と同一のシリーズに含まれる四半期・毎月分配ファンドなど)。



ネット証券の投資家は日本株・グローバル株を志向

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2017年4月4日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑨)。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新2017年3月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・5位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、3・4位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(2・5位はインデックスファンド)。前月2月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)の1・5位は日本株ファンド、2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位はグローバル株ファンド(インデックスファンド)だった。また、週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週3月27日から3月31日までは、1・3・5位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(2・3・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の2月20日から2月24日までは、1・4位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド(インデックスファンド)、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位は商品・バスケットファンドだった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週3月27日から3月31日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・4位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(2・4位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の2月20日から2月27日までの取

引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は商品・バスケットファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(3位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、3月27日から3月31日までのNISA投資信託・買付金額の1・4位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、5位はブラジル株ファンド(3・4位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の2月20日から2月24日までのNISA投資信託・買付金額の1・5位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター株(REIT)ファンド(3・5位はインデックスファンド)だった。

<ジュニアNISA投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週3月27日から3月31日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・4位はグローバル株ファンド、2位は日本株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(1位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の2月20日から2月27日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2・3・5位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(2・5位はインデックスファンド)だった。

<NISA積立～2017年4月4日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2017年3月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2～4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週3月27日から3月31日までのNISA口座では、1・4位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2～4位はインデックスファンド)。

ネット証券では、前月に引き続き日本株の人気が見られ、次いでグローバル株が人気だった様だ。

以上、こうした情報が、NISAやジュニアNISAで「どの商品を購入してよいかわからない」と言う人にはもちろん、企業型DCやiDeCoで金融商品購入を検討する場合にも参考となれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

①2017年3月30日(木)付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2016年」(NISA、iDeCo等制度に関する調査)…「<https://www.toushin.or.jp/topics/2017/16303/>」、

②2017年2月28日(火)付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成28年12月末)…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170228-1/01.pdf>」、

2017年2月27日付日本証券業協会公表の主要証券会社10社のNISA口座開設・利用状況の調査結果(2017年1月末時点)…「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、

③2017年1月17日(火)付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成28年6月末)…

- 「 <http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/datacollection/index.html> 」、
- ④2017年4月2日付日経ヴェリタス「4日間で1100億円集める例も AI投信、実力は」…
「 <http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGXMZO14806070R00C17A4K15200/> 」、
- ⑤2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって？」…「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、
- ⑥2017年3月2日付日本経済新聞電子版「『バランス型』の騰落率 新興国関連が上位に 投信番付」…
「 http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGXKZO13568630S7A300C1ENK001/n_cid=my_top_pickup_list/ 」、
- ⑦2017年1月28日付日本経済新聞朝刊「初心者の投信選び 値動き安定のバランス型は長期向き」…
「 <http://style.nikkei.com/article/DGXMZO12205170X20C17A1PPE001?channel=DF280120166591> 」、
- ⑧2017年4月4日付日本経済新聞電子版「投信、年1回分配型が堅調 残高最高の12兆円に 3月末時点」…
「 http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGXLASGD30H33_U7A400C1MM0000/n_cid=my_top_pickup_list/ 」、
- ⑨SBI証券のNISA ランキング・投資信託…「 <https://www.sbisec.co.jp/> 」、
楽天証券のNISA ランキング・投資信託…「 https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking 」、
マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「 <https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales> 」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。